

「いのち」の教育実践事例

☆県立荒砥高等学校の実践

生命の継承の
大切さに
関する教育

ー リスペクト運動推進中ー

生徒会では「リスペクト運動」を推進しています。おもいやりを持って、他者を尊重する学校を目指して取り組んでいる事例を紹介します。

○ モニトプロジェクトの実践

笑顔とおもいやりあふれる荒高祭を目指し、荒高祭の準備段階から、生徒も教員も一緒に取り組みました。誰かが誰かのシークレットサンタになって「優しさ」や「おもいやり」「親切」を交換するものです。くじ引きでおもいやりのプレゼントを贈る相手を決め、相手に知られないように、優しい行動をします。そして、荒高祭当日に相手がかかるしくみです。誰かのために行動することで、荒高祭を盛り上げることができました。

○ ピアエデュケーションの実践

生徒保健委員会による保健指導を通して、心身の健康に関する意識を高めることを目的に行っています。『青春したいなら心と身体をととのえよう』をテーマに、生活リズム調査から見えてきた睡眠やスマホの使い方等の生活課題について、保健委員が調べ、クラスメートに伝えることで健康行動を変えるきっかけになりました。この取組み後、心の状態がよくなった、生活改善したいという生徒が15%増加しました。

○ レモネードスタンドの実践

令和5年度にがん教育の研究指定を受け、1年を通して学びました。学びの継続として、白鷹町元気ニコニコ健康まつりに参加し、がん教育で学んだことに関する展示や小児がん支援のレモネードスタンドの開設を行いました。町内の方々からも趣旨に賛同いただき、多くのご協力をいただくことができました。がん予防啓発や支援をする側でしたが、逆に温かな気持ちをいただきました。

プレゼント届いた？



生活改善するには？



3箱完売！

